

## II. 地域の概況

### II. 地域の概況

本県の離島地域は、その自然的・社会的条件のために、本土と比較して、社会基盤や生活環境の整備の遅れ、定期航路の安定的かつ継続的な運行、医療の確保など様々な課題を抱えるなど、地域を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある。

一方、離島地域には、離島であるが故に有している特性も多く存在している。それは、瀬戸内海の多島美や変化に富んだ地形が織り成す風光明媚な景観、残されている豊かな自然環境、日本の原風景ともいえる漁村等の生活空間、古くから交通・交流の拠点として栄えてきた豊富な歴史、本土から隔絶されたために形成された独特の伝統・文化などであり、これらは、自然や文化等との触れ合いによる、ゆとりや潤いのある生活を求めている都市圏居住者の‘癒しの空間’として期待される、離島地域固有の大きな資源である。

さらに、瀬戸内海の広大な水域から得られる水産資源の供給拠点、住民のレジャー志向に対応した海洋性レクリエーション拠点としての役割も大きい。

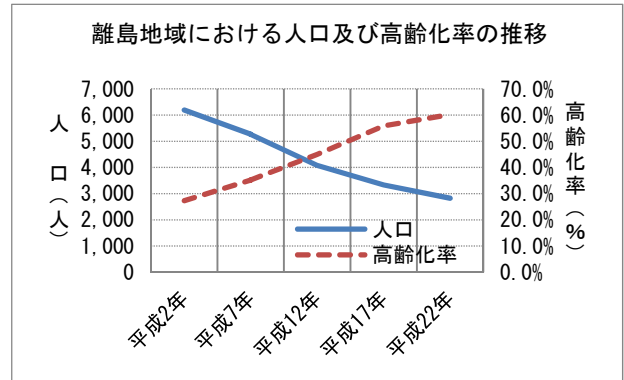
このように、離島地域は、本土にない特性を有しており、本県全体の発展のためにも重要な役割を担っていることから、本県の貴重な財産として、その価値を再認識し、さらなる振興を図る必要がある。

また、5地域全てが一部離島（同一市町村内に離島側と本土側の両地域が存在する場合における離島側地域）であり、離島地域のみで行政単位が完結しないことから、離島地域の活力や行政サービスの低下が生じないように、本土と離島地域が一体となって地域の振興に取り組む必要がある。

#### (1) 人口

平成22年の国勢調査では 2,824 人であり、平成12年の 4,076 人から10年間で約 30.7%も減少している。

また、高齢化率は約 60.2%と県全体の約 25.1%と比べても極めて高く、平成12年の約 45.0%から約 15.2 ポイントの増加がみられるなど、過疎・高齢化が急速に進んでいる状況にある。



(各年の国勢調査、ただし高齢化率は児島諸島を除く)

#### (2) 面積

離島地域の面積は 31.13km<sup>2</sup> であり、県全体面積 7,113.23km<sup>2</sup> の約 0.4% となっている。

土地利用別面積は、森林が 21.81km<sup>2</sup> で島全体の約 70% を占め、次いで原野が 1.96km<sup>2</sup> で約 6.3%、農地が 1.34km<sup>2</sup> で約 4.3% となっており、宅地は 1.29km<sup>2</sup> で約 4.1% である。

#### (3) 交通・通信

本土への交通は、船舶が唯一の手段である。しかし、定期航路が運航している地域もあれば、自家用船のみの地域もあるなど、各地域によって格差は大きい。定期航路が開設されている地域も、便数が少ない、本土側交通機関との連絡が悪いなどの課題を抱えている。

通信は、テレビや電話はもとより、携帯電話等によるブロードバンド環境については全島に普及しているが、本土で推進されている光ファイバ等による超高速ブロードバンドは整備されていない。

#### (4) 産業及び就業の状況

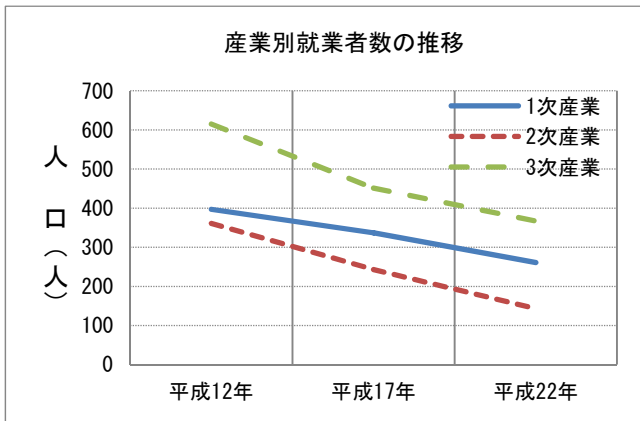
平成22年の産業別就業者では、第1次産業が、261人で32.7%、第2次産業が143人で17.9%、第3次産業が367人で46%となっている。(児島諸島を除く。)

第1次産業では、水産業が多く島の多くで主産業となっており、特に日生諸島地域の頭島でのカキの養殖や、石島地域でのノリの養殖が盛んである。

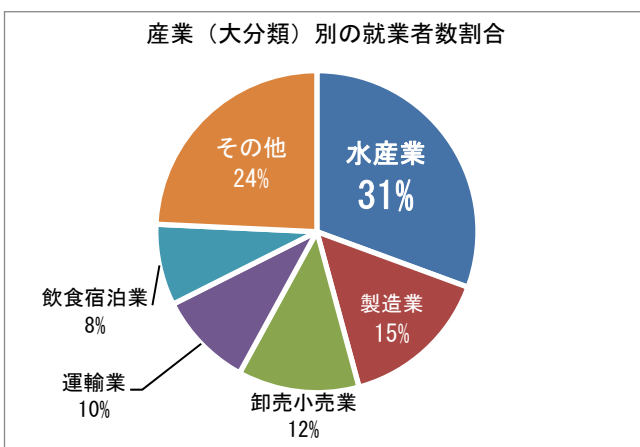
第2次産業では、笠岡諸島地域の北木島で操業されている石材加工業が大部分を占めている。

第3次産業では、卸売小売業や運輸業、飲食宿泊業などが中心となっている。

就業状況は、過疎・高齢化に伴い、全体的に低下傾向である。



(各年の国勢調査、ただし児島諸島を除く)

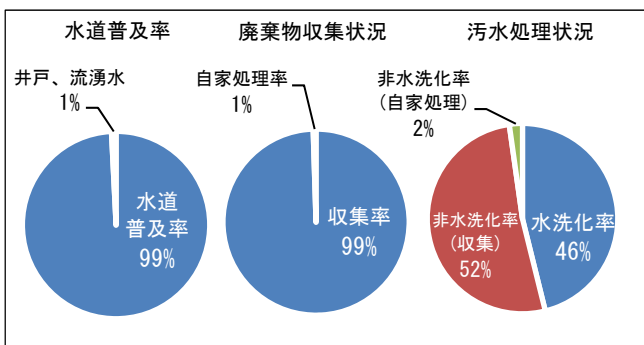


(平成22年国勢調査、ただし児島諸島を除く)

### (5) 生活環境

生活用水及び廃棄物処理については、ほぼ全域において行政サービスを提供しているところであり、人口に対する水道普及率及び廃棄物収集率はともに99%以上である。

污水处理については、漁業集落排水処理施設や合併処理浄化槽等による水洗化率は約46%、バキューム車による、し尿収集や自家処理が行われている非水洗化率は約54%である。



(平成23年4月1日時点 離島統計年報 ((財)日本離島センター))

### (6) 医療

診療所が設置されている島は、有人15島のうち9島で、そのうち、医師が常駐しているのは、白石島のみであり、多くの住民が本土の医療機関に依存している状況にある。

### (7) 高齢者等の福祉

離島地域では、高齢化率が60%を上回る中、介護サービス事業所が設置されている島は、笠岡諸島地域の4島のみであり、多くの住民が本土の介護サービス事業所に依存している。このため、日常的に福祉支援を必要とする高齢者は、やむを得ず本土へ移るケースもある。

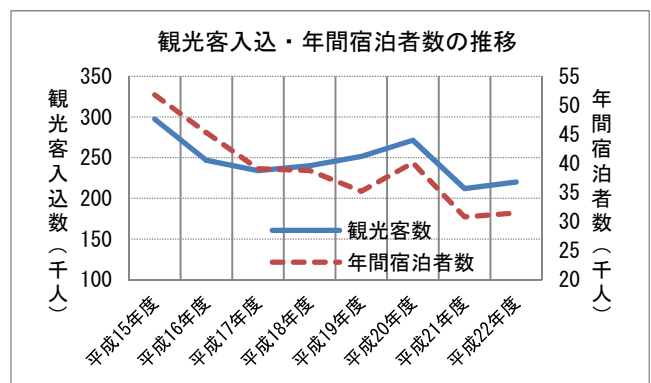
### (8) 教育・文化

教育については、少子化による児童数の減少により、教育施設の休校や統廃合を余儀なくされている地域がある。このため、本土での教育を受けざるを得ない地域もあり、結果として、さらなる若年人口の流出にもつながっている。

文化については、名勝や天然記念物、踊りや祭りなどの地域に根ざした固有の伝統文化や文化財が多く存在しているが、指導者の高齢化や後継者不足などの課題を抱えている。

### (9) 観光

離島地域は、瀬戸内海特有の風光明媚な景観などを有しており、夏季には、海水浴客を中心とした賑わいがある。近年では、瀬戸内国際芸術祭の開催により、多くの来島があった地域もあった。しかし、全体では、少子高齢化の進行や観光に対する嗜好の変化などにより、縮小傾向にある。



(離島統計年報 ((財)日本離島センター) 数値は標本調査)